

総合福祉センター事業評価表 障害者福祉センター事業分

項目	区分 (仕様1、自主)	具体的内容	目標・ねらい		年度評価		令和4年度の実施状況		令和5年度の実施状況		前年比		取組み、成果、利用者の満足度・評価、課題分析、自己評価	
					R4年度	R5年度	実施回数 (回)	参加延べ人数 (人)	実施回数 (回)	参加延べ人数 (人)	実施回数 (回)	参加延べ人数 (人)		
社会生活適応訓練	1	がんばろう会 ◇主に知的障害者対象 ・日常生活訓練 ・家事訓練 ・外出訓練	48	毎週月曜	・自立して生活ができるよう、自主性を尊重。 ・利用者同士の話し合いにより活動内容を決めて実施。 ・レクリエーションを交えながら活動することで、仲間づくりや社会ルールを身に付ける。 ・買物に出掛けたり、簡単に出来るおやつや昼食作りをする事で、生活する力を身につける。 ・屋外活動を体験をする事で、社会ルールを学ぶ。	12	13	47	465	46	314	△ 1	△ 151	①実施回数はほとんど変わらないが、登録メンバーが2名減ったことで延べ人数が減少した。 ②ハンドベル演奏は、新たに1曲を追加し、練習を重ねて昨年同様9月に、老人センターと合同事業で演奏会を実施した。発表する場を作る事で、練習に対する意欲向上に繋げる事ができた。(9/25) ③外出では、各務原市にあるアクア・トぎふへ社会見学に行き、1台の車に職員とメンバーが一緒に乗車して道中を楽しんだ。水族館内では淡水魚や色々な生物を見て説明を聞きながら自然を身近に感じる事が出来た。昼食時、各自で注文・支払いをすることで社会適応訓練に繋がった。(11/6) ④共同作品作りは仲間と協力しながら一つの作品を作り上げていく楽しさを知る事が出来た。 ⑤今年度より家事訓練として調理実習の回数を増やした。自ら道具を準備し仲間と一緒に調理して食べる楽しみを味わうことができた。(4回)
	1	かがやき ◇主に視覚障害者対象 ・日常生活訓練 ・家事訓練 ・外出訓練	24	第2・4水曜	・仲間と一緒に出来る事の楽しさを知る。	13	13	21	123	24	124	3	1	①閉鎖期間がなかったため、年間を通して月2回の開催が可能であった。 ②日中の活動では、歩行訓練を兼ねた公園散策やスシローへ外食・喫茶店に2回ほど出かける。 ③外出では、「イオンモール土岐」へ出かけ、買い物をして外食をすることで、利用者の楽しさを増やす事ができた。(6/14) ④今年度からボランティアの受け入れを開始したことで、活動の幅が広がり外出行事や調理実習などを実施する事が出来た。 ・外出行事(4回) ・調理実習(2回)
	1	ふれあい ◇主に重度心身障害者対象 ・日常生活訓練 ・家事訓練 ・外出訓練 ・音楽療法	48	第1～4木曜 午前	・意欲と能力に応じて生活を送れるよう支援する。 ・自立支援や仲間作りをする。	13	13	45	250	47	241	2	△ 9	①コロナが落ち着いてきたとはいえ、コロナに罹る利用者もあり、延べ人数は減少した。 ②活動内容は、スポーツレクリエーション・作品作り・ゲーム等を主に実施した。 ③外出では、利用者からの意見で「買い物に行きたい」と要望があったので『イオンモール土岐』に出掛けた。ボランティアの協力もあり、利用者も目的の買い物をする事ができ楽しむことも出来た。(6/29) ④交流事業では児童センターや保育園児と季節行事を楽しんだ。
	小計		120					113回	838人	117回	679人	4回	-159人	
創作活動	1	俳句教室 ・講師の指導により実施	24	第1・3火曜 午前	・自分の気持ちを俳句で表現することにより自分を見つめ直す事を目的とする。	13	13	21	89	23	108	2	19	①各々が考えた俳句を講師と一緒に添削・推敲しているが、講師の指導が分かりやすく好評である。(20年近く講師であったが、今年度で辞められた) ②作品応募では、伊藤園が主催する作品コンクールで、1名の方が佳作に選ばれ、可児市文芸祭で4名、多治見市文芸祭で1名の方が入選・奨励賞に選ばれた。 ③ボランティア受入れを再開したので、教室の進行もスムーズになった。

項目	区分 (仕様1、自主)	具体的内容	目標・ねらい		年度評価		令和4年度の実施状況		令和5年度の実施状況		前年比		取組み、成果、利用者の満足度・評価、課題分析、自己評価	
					R4年度	R5年度								
							実施回数 (回)	参加延べ人数 (人)	実施回数 (回)	参加延べ人数 (人)	実施回数 (回)	参加延べ人数 (人)		
	1	絵手紙 ・講師の指導により実施	12	第4火曜 午後	・自分の作品を作るとともに、他の参加者の作品と比較し交流を深める。	12	13	11	47	12	57	1	10	①毎回、色々な題材を準備して皆さん思い思いに描かれている。絵に添える「言葉」からも個性が表れている。 ②今年も御嵩町主催の絵手紙コンクールに出展し、受賞されている。
	1	切り絵	24	第1・3水曜 午前	・細かい作業をする事で指先のリハビリにつながる。 ・完成した時の喜びを期待する。	13	13	16	95	23	142	7	47	①閉鎖期間がなかった為、昨年より参加延べ人数と実施回数が増加した。 ②講師がいない為、参加者同士で切り方や色の配色等を相談して活動され、交流の場にもなっている。 ③作品応募では「ふれあい福祉フェア」にて2名出展され、1名の方が会長賞を授賞され、作品を作成する意欲にもつながっている。
	1	サロン	12	第2火曜 午後	・簡単な おやつ作りや、軽スポーツ・買物等誰でも参加でき、仲間と一緒に楽しむ。	12	12	12	79	12	75	0	△ 4	①11月から1名が一般就職で辞めたため、延べ人数が減少している。 ②調理実習を再開し、2回ほど実施、ピアゴやオークワにも買い物に出掛け、仲間やボランティアとの時間を楽しんだ。
	1	己書 ・講師の指導により実施	12	第3火曜 午後	・講師の指導のもと、自由に筆を走らせ独創性を活かし、自分だけの書・読める絵を制作する。		12			11	57			①昨年度、単発教室で人気があった教室を今年度からは月に1回実施する事となった。 ②他の教室の人数が減少している中、登録者は増加傾向であった。筆ペンを使用して文字を書き、自分らしい作品を作る事が人気の教室である。
	1	ペン習字 ・講師の指導により実施	24	第1木曜 午後	・講師の指導のもと、文字の成り立ちを正しく学び、綺麗な文字が書けるようにする。	12	12	21	52	20	32	△ 1	△ 20	①3人でスタートした教室だが、3人そろって教室を行う事が少なく、延べ人数の減少につながってしまった。 ②次年度は、実人数を増やすため、相談支援事業所等に積極的にPRする必要がある。
	1	自主活動日 ・自由来館者含む	24	第1・3金曜 午後	・誰でも自由に来館し、他の利用者と交流をはかりながら、各自の活動に取り組む。	12	13	24	79	27	73	3	△ 6	①年度の途中で1名の方が活動を辞めた為、実人数が減り、延べ人数が減少した。(一般就労へ) ②個人で制作テーマを決め、自主的に取り組まれていた。各作品展に出展する作品の制作時間にもあてられている。 ③センターでは集中して作品作りに取り組めると参加者から好評であった。また、各々の作品に取り組む意欲が向上した。
小計			132				105回	441人	128回	544人	23回	103人		

項目	区分 (仕様1、自主)	具体的内容	目標・ねらい		年度評価		令和4年度の実施状況		令和5年度の実施状況		前年比		取組み、成果、利用者の満足度・評価、課題分析、自己評価	
					R4年度	R5年度								
							実施回数 (回)	参加延べ人数 (人)	実施回数 (回)	参加延べ人数 (人)	実施回数 (回)	参加延べ人数 (人)		
スポーツ・レクリエーション	1	がんばろう会 ◇主に知的障害者対象 ・スポーツ活動	12	毎週月曜日 (第2月曜 午後を除く)	・健康の維持増進と 身体機能の向上、 社会性や協調性を 養う。	12	13	9	51	15	59	6	8	①風船バレーやボッチャなど楽しみながら仲間との交流を実施した。 ②公園の散歩では、心身機能の向上や心のリフレッシュにも繋がった。また、地域の子供たちや犬の散歩をしていた方と交流する事もできた。また、屋外の活動では、社会性・協調性も身についた。
	1	がんばろう会 ◇主に知的障害者対象 ・リズム体操 ・講師の指導により実施	12	第2月曜 午後	・身体を使って エネルギーを発散する。 ・仲間と同じ目的に 向かって行動する。 ・発表の機会を設けて、 達成感を味わう。	12	12	12	66	12	46	0	△ 20	①今年度、登録者が4名となり延べ人数が減少した。 ②講師の指導のもと、音楽に合わせて体を動かした。 ③活動内容は、前半は軽いリズム体操を行い、後半はダンスを練習し体を動かした。
	1	サウンドテーブルテニス ◇主に視覚障害者対象	12	第4水曜 午前	・視覚障害者の方にとって 楽しみにしているスポーツ であり、仲間と楽しむ。	13	13	11	43	12	38	1	△ 5	①今年度より登録者が1名減ったが、午後のみ利用していた登録者が、年度途中で1日利用に変わったため、延べ利用者の減少が少なかった。 ②ボランティアの方と連携して実施しており、利用者の体力増進につながっている。
	1	かがやき ◇主に視覚障害者対象 ・音楽療法 ・講師の指導により実施	12	第4水曜 午後	・音楽を楽しみながら、 嚙下や身体機能向上を 図る。	12	12	10	40	12	45	2	5	①実施回数は増加したが、自己都合等で休まれる事が多くあり、延べ人数が大きく増加しなかった。 ②マスク着用は個人の自由とし、換気・身体的距離の確保などを行ったうえで、発声や歌を歌った。久しぶりに声を出して歌ったことで利用者から喜びの声が上がった。 ③次年度は、各々の得意な楽器を練習し、演奏会を計画している。
	1	3B体操 ・講師の指導により実施	24	第2・4火曜 午前	・楽しく運動機能の 維持を図る。	13	12	23	115	24	83	1	△ 32	①講師の指導のもと、様々な道具を使い体操を実施した。 ②一時は7名の登録者がいたが、就労へ移行・自己都合等により年度途中で辞められ、年度末には登録者が4名となった為、延べ人数が減少した。
	1	ボッチャ	12	第1金曜 午前	・楽しみながら身体を動かし 運動不足解消と身体機能維持 を図る。また、パラリンピックの種目の普及・促進を図る。	12	11	14	64	10	28	△ 4	△ 36	①障がいの種別関係なく参加する事ができ、参加者は楽しみながら体を動かす事ができた。 ②登録人数が減ったため、延べ人数も減少した。 ③ボッチャの普及促進を図るため、小学校の福祉体験時にアピールする。
	1	風船バレー	12	第3金曜 午前	・楽しみながら身体を 動かし運動不足の 解消と身体機能の 維持を図る。	12	12	10	41	11	30	1	△ 11	①年度途中で2名が一般就職と自己都合にて辞められ、一時は登録者1名の時もあった。その後、登録者は2名増えたが、延べ人数は戻らなかった。 ②次年度の教室登録者が3名となってしまう、試合ができる人数が集まっていないので、教室のPR及び事業の活動内容の見直しが必要である。

項目	区分 (仕様1、自主)	具体的内容	目標・ねらい		年度評価		令和4年度の実施状況		令和5年度の実施状況		前年比		取組み、成果、利用者の満足度・評価、課題分析、自己評価	
					R4年度	R5年度								
					実施回数 (回)	参加延べ人数 (人)	実施回数 (回)	参加延べ人数 (人)	実施回数 (回)	参加延べ人数 (人)				
	1	軽体操 ・機能訓練 ・講師の指導により実施	24	第1・3水曜 午後	・講師の指導のもと専門的に身体機能の維持を図る。	12	12	23	80	21	54	△ 2	△ 26	①登録者数2名の為、延べ人数が減少となった。 ②日常動作に必要な筋力アップを目的とした体操は、参加者から好評だったが、人数増加には繋がっていない。今後、PR方法等、検討していく必要がある。
	1	音楽療法 ・講師の指導により実施	12	第1火曜 午後	・精神的安定と嚥下機能の向上を図る。	12	10	20	81	10	35	△ 10	△ 46	①人数減少に伴い、月2回実施していた教室が月に1回になった為、実施回数・延べ人数が減少している。
	1	ヨガ教室（呼吸） ・講師の指導により実施	24	第2・4金曜 午前	・自分に合った動きと呼吸により、身体機能の維持と精神の安定を図る。（呼吸中心）	12	11	21	166	22	109	1	△ 57	①呼吸ヨガとマットヨガ共に登録者の減少により人数も減少している。 ②今年度は午後からの筋力ヨガをマットヨガに変更して行った。登録者が2名となってしまったため、SNSを使用してPRを行ったが、人数増加は難しかった。来年度は閉鎖する予定である。←午前の呼吸ヨガをマットヨガに変更
	1	ヨガ教室（マット） ・講師の指導により実施	24	第2・4金曜 午後	・自分に合った動きと呼吸により、身体機能の維持と精神の安定を図る。			21	74	18	31	△ 3	△ 43	
	小計		180					174回	821人	167回	558人	-7回	-263人	
更生相談	1	障がい者にかかる相談全般		随時	・身体状況、生活状況、福祉制度等の相談や介護方法の助言を行う。	13	14	随時	42	随時	43	随時	1	①一人の利用者が退職してから再就職までの流れの中でその都度相談に応じてきた為、延べ人数の増加に繋がった。 ②利用者以外の相談は精神障害についての相談がほぼ全体を占めている状態で、相談内容によってはパンフレットなどを送付して利用や支援に繋げるようにした。
	小計		0					-	42人	-	43人	-	1人	
リハビリ指導	1	リハビリ指導	48	毎週金曜 午前	・身体機能の保持、機能回復を支援する。	12	13	75	220	21	66	△ 54	△ 154	①鍼灸マッサージ師の職員都合により、リハビリ指導は休止となった。代替わりの方を探しているが見つからず、職員の紹介で、カイロプラティックをされている方をお願いする事となった。(9月～毎週金曜日のみ)
	小計		48					75回	220人	21回	66人	-54回	-154人	
送迎サービス	1	送迎サービス		随時	・通所が困難な方を対象とし、自宅までの送迎を行う。	12	12	随時	2,172	随時	1,798	随時	△ 374	①教室の参加者で自力または家族送迎が困難な方に送迎サービスを実施した。 ②登録者数減少の為、送迎者数も減少。
	小計		0					-	2172人	-	1798人	-	-374人	

項目	区分 (仕様1、自主)	具体的内容	目標・ねらい		年度評価		令和4年度の実施状況		令和5年度の実施状況		前年比		取組み、成果、利用者の満足度・評価、課題分析、自己評価	
					R4年度	R5年度	実施回数 (回)	参加延べ人数 (人)	実施回数 (回)	参加延べ人数 (人)	実施回数 (回)	参加延べ人数 (人)		
その他	1	障がい者レクリエーション交流会	1	7月	・誰でも参加できるレクリエーション等で障がい者、介護者、ボランティアの交流を図る。	13	13	1	87	1	67	0	△ 20	①昨年度に引き続き、レクリエーション交流会を開催した。今回は、マスク着用・手指消毒は個人の責任に任せる事とし、よさこい踊りで観客も巻き込んだイベントを行って好評であった。 ②延べ人数に関しては、昨年度は演者の数が多く、参加者の数は変わらなかった。
		障がい者社会見学ツアー	1	3月	・日ごろ外出する機会の少ない障がい者の方に出する機会を提供し、家族、友人、ボランティアと一日楽しく過ごす。	13		1	8					①各障がいグループで個々に社会見学に出掛ける事が増えてきた。障害者センター全体での社会見学の実施には至っておらず、来年度への課題となる。 ※(多治見市在住の障害者対象の確認要)
		季節行事	随時	随時	・伝統、文化の継承	12	12	4	154	4	109	0	△ 45	①夏祭り、運動会、節分豆まき等、季節的行事を年間を通じて楽しむ事ができた。 ②今年度は児童センター・老人センターの利用者と実際に交流して行事を楽しんだ。
		①福祉体験 ②地域交流事業	①随時 ②1	①随時 ②10月	①福祉体験 ・福祉体験、福祉講座を行う事により、障がい者への理解を深めてもらう。 ②地域交流事業 ・障害者福祉センターの幅広い周知	12	15	4	228	7	333	3	105	①車椅子体験の回数や福祉共育サポーター養成講座への参加が増えたため、回数・延べ人数の増加に繋がった。 ②各作品展へ出展する事で、認知度の上昇を狙った。
		絵手紙コンテスト	1	3月	・文化芸術活動を通して障がい者の個性と能力の発揮及び社会参加の促進を目的とするコンテスト。	13	15	1	37	1	55	0	18	①大人の部で46名、こどもの部で9名の計55名の方から応募があった。3回目の開催となるため、応募数も増え、延べ人数の増加に繋がった。 ②絵手紙コンテストの審査会后、総合福祉センターの1階で応募者全員の作品展示を実施したが、来館者の多くが足を止めて見学していた。 ③次年度も、PRする事業所を検討し、作品の応募者を増やす。
総合評価書 1(運営・利用状況)-(2)(市の事業の企画・運営・実施状況(仕様書内))点数							12.56	平均値を自動計算。※①行を追加した場合は、計算式を調整すること。※②小数点第3位を四捨五入し、総合評価書へ転記。						

		土曜教室(ふれんど)	随時	随時	・障害者の事業所を利用して いる方などの余暇活動と仲間 作りの機会を提供する。	13	12	1	18	1	14	0	△ 4	①今年度も開催は見送っている。昨年度同様、レクリエーション交流会への参加の呼びかけを行い、14名の参加があった。 ②今年度の重要検討課題である。
--	--	------------	----	----	---	----	----	---	----	---	----	---	-----	---

項目	区分 (仕様1、自主)	具体的内容	目標・ねらい		年度評価		令和4年度の実施状況		令和5年度の実施状況		前年比		取組み、成果、利用者の満足度・評価、課題分析、自己評価	
					R4年度	R5年度								
							実施回数 (回)	参加延べ人数 (人)	実施回数 (回)	参加延べ人数 (人)	実施回数 (回)	参加延べ人数 (人)		
その他	2	単発教室	2	随時	・通常のセンター利用者だけではなく、広く市内全体に公募し利用者拡大を図る。	15	13	2	16	1	6	△ 1	△ 10	①昨年度は2回実施しているが、今年度は1回開催にとどまったため、延べ人数は減少している。 ②終了後、「物を作る講座をまたやってほしい」と参加者からは好評であった。
		障がい者団体意見交換会	1	5月	・各障がい者団体が一同に意見交流をし、事業の参考にする。	12	11	2	4	0	0	△ 2	△ 4	①今年度は「障がい者団体一覧表(名簿)」を確認して変更があった団体の訂正を行った。一同に介して意見交換会は行っていない為、来年度の開催を目指す。 ②かがやきクラブ(視覚障がい)のメンバーと前代表の小栗さんでリハビリ指導について意見交換会を行った。
		交流事業	随時	随時	・複合施設の利点を活かすとともに、社協が運営する他施設との交流を図る。	12	13	4	67	3	61	△ 1	△ 6	①昨年度はオンラインでの交流だったが、今年度は身障センターで園児達と直接触れ合うことができた。(3/14) ②発表会や作品展などを交流事業で行う事で多世代との交流ができた。
	その他小計(仕様+自主)							20回	619人	18回	645人	-1回	34人	
総合評価書 1(運営・利用状況)-(3)(自主事業の企画・運営・実施状況)点数							12.25							

【留意事項】

1. 「区分欄」は、指定管理者の協定書・仕様書で定められた事業は「1」、協定書等がない自主事業は「2」を記入。
2. 新規事業、廃止事業については、実施事業の項目を適宜斜線とする。